

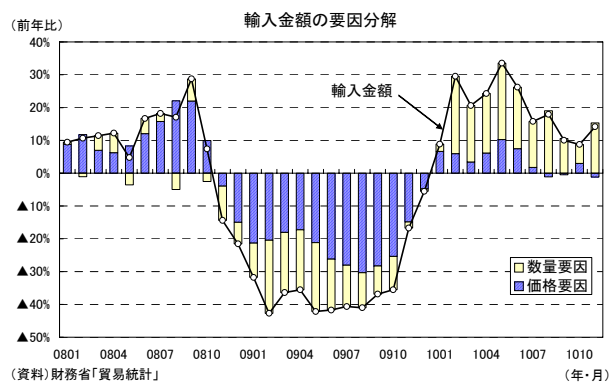
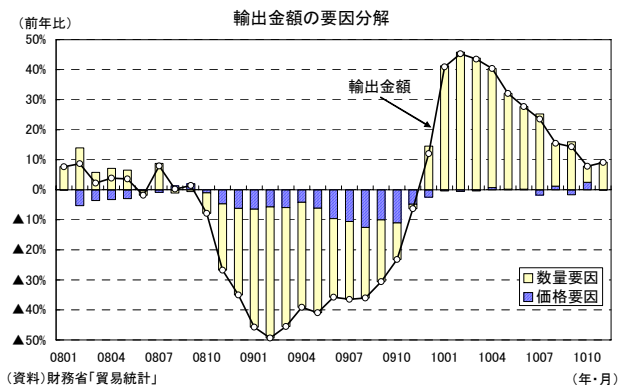
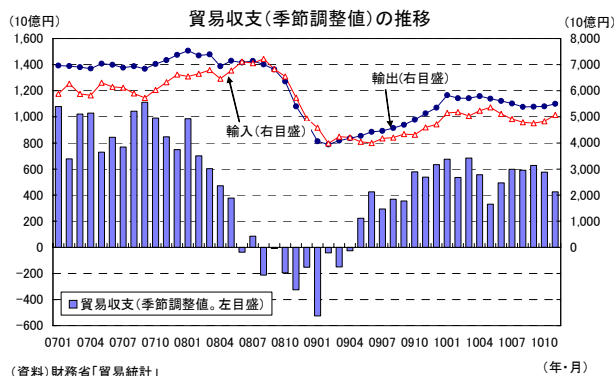
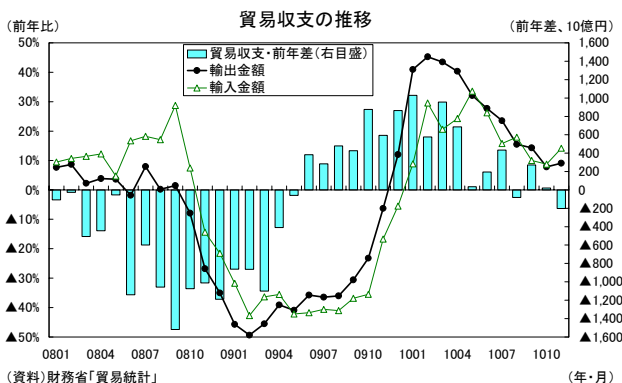
# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 10年11月 ～輸出の減速続くが、持ち直しの兆しも

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎  
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 貿易収支が3ヵ月ぶりに悪化

財務省が12月22日に公表した貿易統計によると、11月の貿易収支は1,628億円の黒字となり、事前の市場予想（共同通信集計：4,561億円、当社予想は3,987億円）を大きく下回った。輸出（10月：前年比7.8%→11月：同9.1%）、輸入（10月：前年比8.8%→11月：同14.2%）ともに前月よりも伸びを高めたが、輸入の伸びが輸出の伸びを大きく上回ったため、貿易収支は3ヵ月ぶりに前年の水準を下回った（前年比▲55.4%）。季節調整済の貿易収支は4,257億円の黒字となり、黒字幅は前月の5,757億円から縮小した。輸出（季節調整値）が前月比1.7%と3ヵ月連続で増加したが、輸入が前月比5.1%となり輸出の伸びを大きく上回った。



輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比9.2%（10月：同5.3%）、輸出価格

が前年比▲0.1%（10月：同2.4%）であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比15.4%（10月：同5.7%）、輸入価格が前年比▲1.1%（10月：同2.9%）であった。

11月の貿易収支は輸入の大幅増加を主因として大きく悪化した。今年の11月は休日（土日、祝祭日）が昨年よりも1日少なく、通関日数が多かったことが輸入の高い伸びの一因になっている可能性がある。このまま貿易収支の悪化傾向が続く可能性は低いだらう。

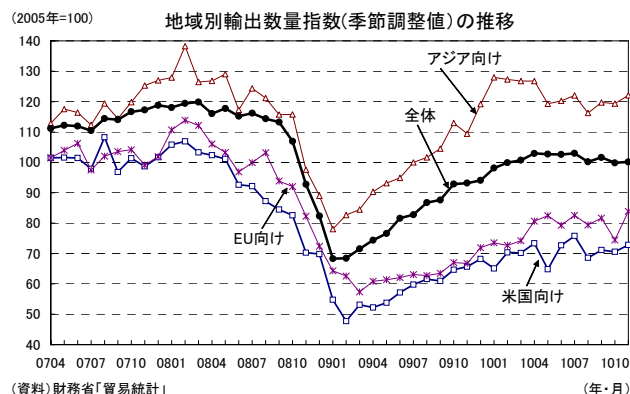
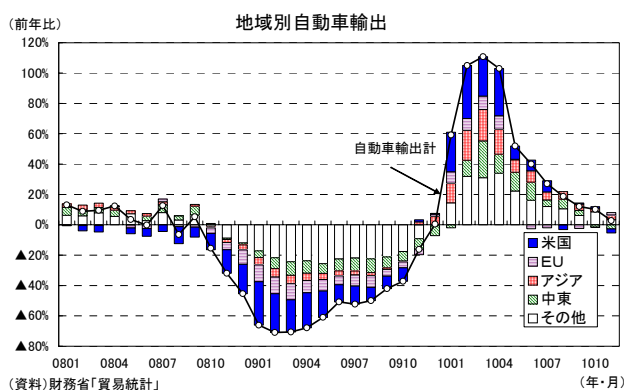
## 2. 輸出の減速続くが、持ち直しの兆しも

自動車輸出は前年比2.8%となり、10月の同10.2%から伸びが大きく低下した。EU向け（10月：前年比▲2.4%→11月：同15.8%）は6ヵ月ぶりに増加し、アジア向け（10月：前年比16.7%→11月：同22.9%）は前月よりも伸びを高めたが、米国向け（10月：前年比3.2%→11月：同▲7.5%）が3ヵ月ぶりに減少に転じたことが響いた。

11月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比11.0%（10月：同9.5%）、EU向けが前年比25.8%（10月：同11.4%）、アジア向けが前年比11.3%（10月：同5.9%）となり、いずれの地域向けも前月から伸びを高めた。季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比3.2%、EU向けが同12.6%、アジア向けが同2.3%、全体では同0.3%となった。7-9月期に対する10、11月の平均は米国向けが▲0.2%、EU向けが▲2.5%、アジア向けが1.2%、全体では▲1.6%となっている。輸出は引き続き減速局面にあるが、弱めの動きが続いていたアジア向けが持ち直しつつある点は明るい材料と言える。

輸入数量指数（季節調整値）は前月比4.7%の高い伸びとなったが、10、11月の平均は7-9月期よりも▲0.4%低い水準にある。輸入は国内需要の持ち直しを背景に比較的底堅い動きを続けてきたが、ここにきて弱含んでいる。

7-9月期のGDPベースの外需寄与度は前期比▲0.0%と6四半期ぶりにマイナスとなったが、10-12月期は輸出の伸びが7-9月期の前期比2.5%から大きく低下することにより、外需のマイナス幅はさらに拡大する可能性が高い。しかし、ここにきて円高に歯止めがかかりつつあること、米国、中国経済が比較的底堅い動きとなっていることから、輸出の失速は回避され、年明け以降は持ち直しに向かうことが予想される。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。